

少し先の日本の教育の未来を考える

～現場編～

心と能力を同時に高めるメソッド 保育園で何が起きているのか？

保育園での活用法

——ピグマリオン学習の導入のきっかけをお聞かせください。

希代 私たちは、理想の幼児教育とは何かを常に考えています。様々な教育法を学び、取り入れてきました。その一つに立腰教育があります。0才児から正座・整列・姿勢を直すことにより、自立心を高め、集中力を養います。学ぶ土台をこれで作り上げてきました。

しかし、その上に何を積み重ねるのか？ こどもの園・ぎんのすが目指すのは、頭の良さを育てることです。頭の良さというのは学歴や偏差値ではなく、的確な判断力、自己表現がしつかりでき、人との



希代典子園長

コミュニケーションがスムーズに行えること。そして常に新しいことに取り組み、吸収していく能力があることだと考えています。そのためには、総合的に子供の発達を考えられているプログラムが

必要になりました。そこで出会ったのが、ピグマリオン学習です。

——ピグマリオン学習を導入して、お子さんはどのように変わりましたか？

的な方もおられたかもしれないですね。でも、1年間してみると、子供たちがこんな風に変わるのかと驚いています。休憩時間も子供たちは、様々な図鑑を見ている。あの時歴史の図鑑を見ていた子が、担任の先生に「年号を覚えると格好いいと思う？」と聞いてきたんですね。覚えられたらすごいよねと先生が言ったら、ジュラ紀から平成まで覚えてきたんです。そうするとそれが流行り出して、クラスの子みんなが覚えるようにになりました。知的なことが子供たちの中で自然にブームになるんです。

このようなことがあるので、朝の1時間が子ども達で、朝の1時間を伸ばす貴重な1時間だと先生たち自身が感じています。

心も同時に大きく成長させる

——これからピグマリオン学習を導入する方に何かアドバイスはありますか？

希代 ものすごく変わりました。学力の向上は子ども達の思考を二次元的にします。論理的思考が育ち、社会の中に置かれている自分という存在を把握するようになります。つまり、自分が「今、何をすべきか」ということが考えられるようになります。

——こどもの園・ぎんのすぐでは何歳から取り入れているのですか？

希代 子供たちは1歳児の後半からお箸をもつて食べるお稽古をします。ちょうどその頃が鉛筆を持つお稽古をする時期に重なります。ですので、1歳児の後半からお箸と鉛筆を持つトレーニングを初めて、2歳のクラスに上がった時に、ピグマリオン学習の線引きやクレヨンを導入しています。

入っています。

——1歳後半からお箸を持つトレーニングをしているのは早いですね。しかし、他の保育園で指導するのは難しいのではないですか？

希代 いえいえ。保育園の生活は一日7～8時間とたっぷりあります。子ども同士互いに刺激を与えあって生活しています。一人が保育士に「お箸が上手に持てるね」と褒められると自分もつてみようと思いが湧いてきます。周りの子ども達も影響を受けやすい環境にあることが素晴らしいのです。

受験にもスムーズに対応

——小学校受験の指導にはどのように役立っているのでしょうか？

希代 ピグマリオン学習は、毎朝の8時半から1時間いたらずに潰しまつたんです。そのいたらずに泣いた子が先生に叱られて泣いたら、涙を拭くティッシュを取りに行きました。思いやりの深さに胸を打たれました。また、卒園式の時には、彼の隣にじつと座っていられない友達が出て、「きちんと座っていけない」とその友達の膝の上につつと手を置いています。こちらからは何も頼んでいないのですが、そういう思いやりも身につくことに驚きました。

このような人間的成長を伴う学力の向上は私が見てきた他の幼児教育の教材ではないと思います。

他に類を見ないピグマリオン学習を導入して、少し先の未来の教育を体験してみようかどうか。

お問い合わせはこちら

ピグマリオン学習研究所
http://www.pygmalion.co.jp/

検索

行なっています。2歳は、先生が3人に1人ついて交代でピグマリオンをします。3歳は全員です。この1時間以外は普通の保育園と一緒に。保護者の方々も最初の頃は受験までは考えておられない方が大半でしたが、子ども達の成長を目の当たりにして受験を考えるようになっていきました。今は入園時から受験目的の方が増えています。

事の大切さが分ります。現在は、個別に進捗状況を把握し、年齢ではなく、レベル別に机を分けています。4歳でも年長さんと同じレベルの子もいますし、年長さんでも4歳の子のレベルと同じ場合もあります。——習熟度別に指導されるのは、特に先生が大変だと思つのですが反応はいかがですか？

希代 もしかしたら、先生の中には内心、朝からいきなりお勉強をさせることに批判



「ピグマリオン学習」を基点として子どもの劇的な成長を体現している「こどもの園・ぎんのすが」

希代 おかげさまで、子供達は朝登園すると、自分で引き出しの中に入っているピグマリオン学習の本を出して、机に座ることが習慣づいていきます。つまりいたるところをクリアできると、子供たちは「一生懸命努力したらわかるようになるんだ」ということを体験するんですね。それが学ぶ意欲を生み出し、努力する



ピグマリオンメソッドを導入した初めの保育園「こどもの園・ぎんのすが」